活動事例

青年部・女性部

「母の日チャリティー芸能公演」で地域に貢献

沖縄県うるま市石川商工会女性部

うるま市は、沖縄本島の中央部の東海岸に位置し、平成十七年四月一日に旧石川市、旧具志川市、旧勝連町、旧与那城町の二市二町が合併して人口一二万人の県内三番目の規模となりました。沖縄県の中核都市として、「魅力ある都市基盤づくり」に向け、スタートしています。

うるま市地区内の四商工会も公共団体の統合整備を図ることが求められ、合併に向けた検討を重ねてきました。本年度には合併協議会が設置され、十九年四月一日合併を目指し、「地元に支持され自立する商工会」の実現に向けて精力的に取り組んでいます。

うるま市石川商工会女性部（佐次田静子部長）は、昭和四十九年十一月に県下で最初の商工会婦人部として誕生しました。今日では部員六八名を有し、商工業に従事する商工女性として、自らの資質の向上と女性の特性を生かした地域活動等の事業を実施しています。

当女性部の「母の日チャリティー芸能公演」は、平成元年に商工会婦人部の設立一五周年記念事業として実施した「チャリティー芸能の集い」がきっかけとなり、今や一七年間も続く一大イベントです。

旧石川市は、戦後沖縄の政治、経済、教育、芸能文化の発祥地として発展したまちで、終戦直後は多くの劇場（芝居小屋）や沖縄の芸能人が育った芸能の盛んなまちであることから、記念事業として「チャリティー芸能の集い」（沖縄芝居・琉舞）が実施されました。

「チャリティー芸能の集い」は、立ち見が出るほど多くの観客で会場が埋め尽くされ、大盛況となりました。役員の中からも、一回きりの記念事業ではなく、毎年開催しようとの声が自然とわきあがり、次年度の事業計画に芸能公演イベントを盛り込むこととなりました。

当時、「母の日」には近隣市町村のホテルや劇場でいろいろなイベントが行われており、市内の多くの人が市外に流出している状況でした。役員会では、社会福祉の増進に資すること、地域文化の向上、地域への経済効果も狙い、「母の日チャリティー芸能公演」と名称を改め、五月の第二日曜日に開催が決定しました。

本事業の取り組みは、前年度の十

交通安全運動のお守り作り

母の日チャリティー芸能公演

母の日チャリティー芸能公演での寄付金贈呈

公演を終えて笑顔の女性部員

〜十一月に三役で出演する劇団を選定し、二〜三月の年度末の忙しい合い間をぬって、女性部役員を中心に協賛広告依頼、チケット販売やポスター掲示の協力依頼のため、市内外の企業訪問などに駆け回ります。

本番が近づくと、役員は当番制で近隣市町村を広報車で巡回しますが、ゴールデンウイークの期間も休まず頑張って広報活動を行っています。

公演は、昼、夜の二回公演で、当日は早朝から部員が準備に奮闘し、劇団員の弁当や飲物を準備する接待係、来場者を迎えるチケット係、高齢者、障害者を会場内へ案内する場内整理係に役割分担し、おもてなしの心で来場者を笑顔でお迎えしています。

花いっぱい運動

公演終了後に、来場者から「とっても楽しかった！　ありがとう！」と笑顔で言葉をかけていただくと、今までの疲れも吹き飛び、次回も頑張ろうという気持ちになります。

当公演会は毎回好評で、市内外から一〇〇〇人あまりの観客を動員しており、収益金から市育英会と福祉団体への寄付金を贈呈し、社会福祉や地域活性化につながる事業活動として、高い評価を受けています。

また、当女性部には琉球舞踊と日本舞踊のサークル活動があり、サークルのメンバーを中心に商工会の催し物や老人ホーム慰問、福祉施設のイベントへの出演協力や布オムツ作りの奉仕作業などに積極的に参加しながら、楽しく活動しています。

ドライバーにお守りを配布

そのほかにも、県女連の統一事業として、県内交通遺児育成のための「交通遺児へ愛の手を！」をテーマとした〝一円玉募金運動〟や、年末交通安全運動として「事故をおこしま千、おこさせま千」を標語に掲げ、部員でお清め塩入りのお守りを一〇〇〇個作成し、地元警察や交通安全協会の協力を得ながら、市内を通る国道三二九号のドライバーに配布しています。

ホスピタリティーの高揚と地域のイメージアップを図ることを目的とした「花いっぱい運動」も実施しており、年間を通じて充実した事業活動を行っています。

今後は、商工会合併に伴い女性部事業についても統合や整備等を検討しなければなりませんが、「母の日チャリティー芸能公演」については、合併後もぜひとも続けていきたいと思っています。

さらに、商工業に携わる商工女性としてのアイデアと部員の団結により、地域に密着した事業活動を実施し、魅力あるまちづくりに寄与できるよう努力していきます。